



祐介の目

大田ゆうすけ
(福山市議会議員)

No.60

毎月1日号に掲載

福山からも多くの観光客が訪れるようになるのではないか。

そして今回の訪問の目玉とも言える下水処理水再生施設を訪問した。浦項市の下水道は日量23万トンの汚水を処理しているが、うち10万トンを逆浸透膜等により高度処理して11kmに及ぶ管路を敷設してポスコ製鉄所の工業用水に転用している。これにより浦項市の面する海は大変美しくなり、巨大製鉄所に海水浴場や漁港が隣接し、新鮮な海産物が浦項市の売りとなっていた。福山市もぜひ見習うべき取り組みと強く感じた。

問題はランニングコストで、浦項の施設は1トン当たり50円の経費がかかっているが、うち20円は金融機関への支払いであり、実質的には30円、これは福山市の工業用水単価31円と遜色ない。さらに経費の40%が電気代との事で、新たな工業用水が確保できれば芦田川河口堰の役目は終わり、私がかねてより提案している河口堰を活用した潮汐発電を行えば電力も確保できる。さらに幸運な事に再生した工業用水をJFEに送水するには、芦田川浄化センター(下水処理場)の隣にある日本化薬まで管路が敷設済みだ。学び多い訪問であった。

浦項の下水処理場

7月に羽田市長を団長とする訪問団の一員として親善友好都市である韓国の浦項市を訪問した。まずは朴正熙大統領が国運を賭けて建設した韓国最大のポスコ製鉄所を訪問した。建設費には日本からの戦後補償金が充てられ、日本鋼管や新日鉄等の日本企業から技術支援を受けたと、流暢な日本語により説明を受けた。当時、福山から技術指導に赴いた方も多かっただろう。

先人のお陰で福山からの訪問団はVIP待遇であり、海から10万発を打ち上げる花火大会も特等席で鑑賞できた。海岸沿いにはウォーキングコースが整備されており、花火の翌朝に走って浦項のまちを散策した。近代的なビルが林立する中、歴史や文化も大切に保存する方針も伺えた。そして何よりまち全体が発するエネルギーを感じる事ができた。今後、